

発火するリチウムイオン電池、“回収停滞”を解消へ

分断された回収網を再構築する 新サービスが4月始動—事前相談受付開始

本リリースのハイライト

- 近年、リチウムイオン電池を原因とする発火事故への警戒が高まる
- 廃棄段階における回収の停滞が新たな課題に
- 回収が見送られ、排出事業者が保管を続けざるを得ないケースが各地で発生
- サティスファクトリーは、構造的な回収停滞を解消する新たな回収スキームを構築
- 2月27日より[事前相談受付フォーム](#)を開設し、2026年4月よりサービスを提供

背景 | 滞留と二次的リスク

サティスファクトリーには、**家電量販店やリユースショップ、空港、商業施設**などから、リチウムイオン電池の処理に関する相談が相次いでいます。たとえば、JBRC*回収対象外品の海外製品や、膨張や破損がみられる製品、分離できない製品など、持込先が確定せず収集運搬が成立しないケースがあり、**排出事業者がやむを得ず長期間保管を続ける状況**が生まれています。保管の長期化は管理負担の増加だけでなく、事故リスクや対応責任の不明確化を招き、現場に新たな課題を生じさせています。

*小型充電式電池の回収・再資源化を行う日本の一般社団法人 JBRC

課題 | 部分最適が招く「回収の停滞」

近年は発火拡大を防ぐ容器の開発が進み、安全な保管について対策が検討されています。しかしながら、安全な回収についての対策は置き去りとなり、現場の滞留は解消されていません。排出事業者と収集運搬会社のいずれか一方だけが対応しても、回収から処理までの流れが途切れれば滞留は発生します。**保管、回収、処理までを一体で運用できる環境**を整えることが不可欠です。部分最適ではなく、全体設計によって初めて安全な回収が継続可能となります。

概要 | リチウムイオン電池の安全回収サービス

サティスファクトリーが構築するサービスでは、排出段階での状態確認を起点に、業態や規模の制限なく、**回収条件の整理、排出量に応じた保管・運搬容器のレンタル、回収手配、マニフェストによる証跡管理**まで提供します。分解が困難な製品や膨張・破損した電

池など、従来の回収体制では対応が難しかった対象も含め、排出から処理までの流れを事前に構築することで、現場で継続可能な運用を実現します。

▼サービス概要（予定）

内容	リチウムイオン電池の回収手配
費用	運搬費+処分費+手配料（容器代含む）
対象	家電量販店／リユース会社／空港／商業施設／医療機関／リース会社 など
地域	全国（関東より順次展開）
受付開始	2026年2月27日（ご相談の方は こちらへ ）
提供開始	2026年4月
提供	株式会社サティスファクトリー

▼サティスファクトリーの役割

当社はこれまで、企業の廃棄物にかかわる課題解決に取り組んでまいりました。そのなかで、環境コンサルティングや資源循環スキーム構築支援、処理困難物への対応支援は近年ニーズが高まってきています。本取り組みも、社会課題化するリチウムイオン電池の見えにくい潜在的な課題まで踏み込み、排出・運搬・処理を分断なく接続する運用インフラの構築を目的としています。「処理できない」を前提に立ち止まるのではなく、実装可能な仕組みに転換することで、資源循環の現場課題の解決を図ります。

展開 | 対象拡張へ

本サービスは、まずリチウムイオン電池の回収停滞解消を目的に構築しましたが、今後は**他の充電式電池や小型家電製品へ**と対象を拡張していく構想です。製品に内蔵された電池や分離困難な機器を含め、法令に適合した回収ルートを整備することで、適正処理と資源循環を両立させる仕組みへと発展させていきます。このような家電製品に含まれる金属資源の確実な回収を通じ、**国内における資源循環の高度化および資源安全保障への貢献**を目指します。

企業概要

株式会社サティスファクトリー

所在地：東京都中央区八丁堀三丁目12番8号HF 八丁堀ビルディング6F

代表者：代表取締役 小松 武司

設立：1996年11月

お問い合わせ先

株式会社サティスファクトリー

環境ソリューション営業本部

サービス開発責任者：渡邊

consulting@sfinter.com
